

県総合教育センターの収蔵資料について

県総合教育センター総務課

県総合教育センターでは、教職員の皆様、教職員を目指す皆様に役立つ、書籍、雑誌、資料等を多数用意しています。その一部を紹介します。

教育書

カリキュラムサポート室には現在約1,500冊の教育書を置いてあります。その一部を紹介します。

GIGAスクール

- ・GIGAスクールに対応した小学校道徳ICT活用ブック（明治図書）
- ・ICT×数学GIGAスクールに対応した1人1台端末の授業づくり（明治図書）他

評価

- ・「指導と評価の一体化」のための学習指導評価に関する参考資料 小学校編 全教科（東洋館出版社）
- ・「指導と評価の一体化」のための学習指導評価に関する参考資料 中学校編 全教科（東洋館出版社）他

学習指導

- ・板書で見る全単元・全時間の授業のすべて 中学校各学年 各教科（東洋館出版）
- ・板書で見る全単元・全時間の授業のすべて 小学校各学年 各教科（東洋館出版）他

働き方改革

- ・「学校における働き方改革」の先進事例と改革モデル（学事出版） 藤原文雄 編著
- ・こうすれば学校は変わる「忙しいのは当たり前」への挑戦 学校の働き方改革の教科書（教育開発研究所）妹尾昌俊 他

「千葉教育」執筆者関係書

- ・電子黒板が創る学びの未来 新学習指導要領習得・活用・探求型学習に役立つ事例50（ぎょうせい） 中橋 雄（令和4年度菊号 ケーススタディ執筆者）・中川一史著
- ・GIGAスクールを成功させる 教師の言葉かけ（東洋館出版社） 西川 純（令和4年度桜号 現代の教育事情執筆者）著 など

※その他の蔵書（H28年以降購入書）については、県総合教育センターHPから確認することができます。



その他

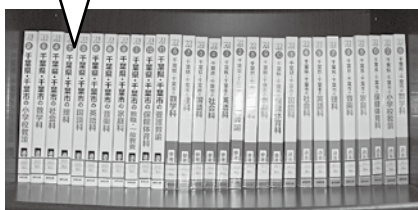
教員採用試験の参考書や過去問題集（千葉県・千葉市）を置いてあります。これから、千葉県・千葉市の教員を目指す方は御活用ください。

教科書

現在使われている各学校種の教科書を自由に見ることができます。また、過去に使われていた教科書も別室に収蔵しています。こちらをご覧になりたい方は、事前にご連絡ください。
総務課総務企画担当 043 (276) 1204

指導案・資料

各教科領域の指導案を置いてあります。また、文科省をはじめ教育関係機関発行の刊行物も置いてあります。



教育雑誌

24種類の教育雑誌を毎月分そろえています。（「特別支援教育」は季刊）バックナンバーもご覧いただけます。

- 国語教育（明治図書）・社会科教育（明治図書）
- 新しい算数研究（東洋館出版社）・数学教育（明治図書）
- 理科の教育（東洋館）・道徳と特別活動（文溪堂）
- 英語教育（大修館）・体育科教育（大修館）
- 教育音楽【小】（音楽の友社）
- 教育音楽【中・高】（音楽の友社）
- 教育美術（教育美術振興会）・特別支援教育（東洋館出版社）
- 特別支援教育研究（日本文化科学社）
- 授業力&学級経営力（明治図書）
- 教職研修（教育開発研究所）・別冊教職研修（教育開発研究所）
- 生徒指導（学事出版）・学校教育相談（ほんの森出版）
- 初等教育資料（東洋館）・中等教育資料（ぎょうせい）
- 高校教育（学事出版）・健康教室（東山書房）
- 保育とカリキュラム（ひかりのくに）
- 食育フォーラム（健学社）

※総合教育センターは研修施設であり、図書館ではありませんので、資料の貸出しやコピーは行っていないことをご了承ください。

令和4年度調査研究事業

「小・中学校理科における科学的に探究する学習の進め方に関する研究」

県総合教育センターカリキュラム開発部科学技術教育担当

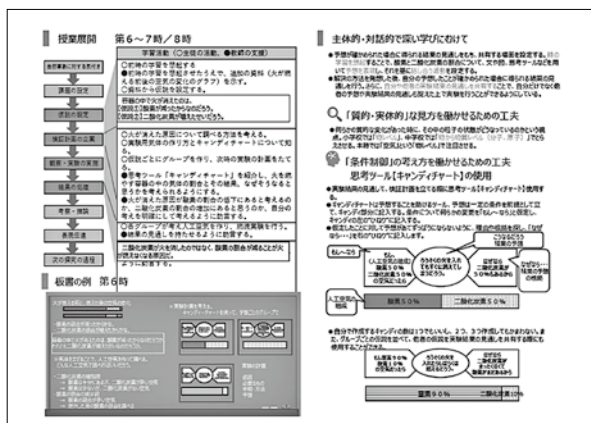
1 研究の目的

研究の目的を「小・中学校理科において、科学的に探究する学習の授業デザインを開発し、その有効性を明らかにする」とし、授業実践に基づいた研究を行った。

本研究の成果を「授業デザイン集」および「指導資料」として提供することにより、千葉県の小・中学校教員の指導力向上に寄与するとともに、児童生徒に必要な資質・能力の育成を目指す。

2 研究の概要

理科の目標、育成すべき資質能力の一つとして「科学的に探究する力」があり、子供たちが科学的に探究する力を身に付ける理科の授業づくりが求められている。本研究は、この科学的に探究する力を養う授業をどのように実践すべきなのかを7つの「授業デザイン集」と5つの「指導資料」によって示したものである。「授業デザイン集」は、教師が指導や評価で活用できる「探究学習を進める上で必要とする資料」として作成した。学習過程における、「単元の目標」「授業で働かせたい理科の見方・考え方」「育成したい資質・能力」「評価の計画」「授業展開」「板書の例」



「主体的・対話的で深い学び」で構成している。併せて、思考ツールの使用例等を掲載した。

「指導資料」は、理科の見方・考え方を働かせる授業を行うための道具であり、「理科の見方ポスター*1」「理科の学習の進め方ポスター*2」「思考ツール活用ポスター*3」「探究授業及び学習課題一覧」「理科の見方動画」を作成した。また、指導資料*2は問題解決の過程を示したもので、千葉県の実践モデルプログラムとも対応している。

3 ポスターの配付

本研究の成果を広く普及するために、指導資料*1～*3などを、県内の全公立小・中学校及び特別支援学校（小・中学部）に配付する。このポスターは、理科室での掲示を想定し、児童生徒及び指導者にとって、分かりやすく役立つものを目指して作成したものである。



4 おわりに

現在、VUCA（先行き不透明で予測困難な）の時代を迎え、未来の個人の幸せ、未来の社会の豊かさを創造するため、理工学分野の教育に一層の注力と、女性の理系分野での活躍が求められている。本研究が、その一助となることを願う。

教育相談コーディネーターを生かした 教育相談体制の構築に向けて

県子どもと親のサポートセンター教育相談部

1 研究の目的

本研究は、令和2年度作成「機能的な教育相談体制チェックリスト」（以下「教育相談体制チェックリスト」）を、より学校現場で使いやすくすることを目的とする。その過程で生じた課題解決への提案を行い、教育相談体制の構築に向けた新たな道筋を示すものである。

2 研究の方法

(1)研究1

教育相談体制チェックリストの改訂

当センター主催の教育相談上級研修及び教育相談コーディネーター養成研修受講者への質問紙調査、研究協力校教育相談担当者や管理職への聞き取り及び、質問紙調査を行う。

(2)研究2

「教育相談自己評価シート」の作成、検証

教育相談体制チェックリストの改訂作業から、明らかになった課題解決のために「教育相談自己評価シート」を作成し、当センター主催の教育相談基礎研修及び教育相談上級研修と研究協力校にて検証を行う。

3 研究の概要

(1)研究1

①質問紙調査（教育相談上級研修、教育相談コーディネーター養成研修受講者）

「教育相談体制を整えるために必要なこと」に関する自由記述では、「若手教員増加に伴う人材育成」「研修の充実」「教育相

談個人チェックリスト」などの意見が複数あった。

②研究協力校への調査

「教育相談体制を整えるために必要なこと」に関する自由記述では、「感染症対策をしながらの学校生活で、人間関係構築に難しさを感じている生徒が増えている。教育相談の重要性をより感じる」「教員間で教育相談に関する考え方の違いや実施方法に違いがあり、研修の必要性を感じる」などの意見があった。

③考察

①②より、教員個人が抱える課題と学校が組織として抱えている課題が明らかになった。この課題解決に向けたツールの提供ができれば、教育相談体制が整い、個人及び組織として質の高い教育相談を、各学校で実施できることが想定される。

(2)研究2

①教育相談自己評価シート

研究1で明らかになった課題解決のために「教育相談体制自己評価シート」を作成した。同シートは、短時間で実施が可能で、教育相談に関する必要最低限の知識の確認ができ、管理職や教育相談担当が学校の状況やニーズを把握することで、研修の企画・運営ができることを目指した。

「教育相談自己評価シート」は「自己評価シート」「アドバイスシート」「集計シート」の3つに分かれている。

「自己評価シート」（表1）は「個を支え

る基本的視点」「個に応じた支援」「相談時の配慮事項」「外部連携」「教師自身の健康管理」の5つの分類からなる20項目の質問に答え、点数を出すことで自身の現状把握を行う。

表1 自己評価シート（抜粋）

個に応じた支援	13	合理的配慮の意義を理解していますか。
	14	各発達障害（ASD、ADHD、LD）の基本的特性を理解したうえで適切な支援に努めていますか。
相談時の配慮事項	15	児童生徒と個別で面接を行う際の配慮すべき点を知っていますか。
	16	教育相談室の利用方法を理解していますか。
	17	SC、SSWの出勤曜日とその役割を知っていますか。

「アドバイスシート」（表2）は20項目の質問の中でワンポイントアドバイスが必要なものについてまとめている。

表2 アドバイスシート（抜粋）

【児童生徒への気づきの視点】	
☐ 体調の変化	☐ 生活リズムの変化（睡眠、食事等）
☐ 言動や表情（感情の起伏）	☐ 仲間関係（対人関係）
☐ 学力（成績の低下）	☐ 休み時間の過ごし方
☐ 家に帰りがたがる、帰りがたがらない	☐ 持ち物（忘れ物、紛失）
☐ 遅刻、早退、欠席	☐ 人との距離感（依存、離脱傾向等）
☐ 虐待の兆候（傷、あざ、服装、におい、食事、態度の変化等）	

「集計シート」は、個人や組織の課題がわかるよう、個人の点数の低い項目と全体を集計した際に、平均値が一定の値より低い箇所は、着色されるようになっている。自校の教育相談の強みと弱みが視覚的に確認できるようになっている。

- ②質問紙調査（教育相談基礎研修、教育相談上級研修の受講者）の自由記述から
「教育相談担当者が校内の教員の意識に

目を向けられる機会となった」「自身の取組を振り返ることができた」「3回分記入できることで変容がわかることや、集計ができるところが便利」などの意見があった。

③研究協力校への聞き取り及び質問紙調査

研究協力校（小学校、中学校各3校、高等学校2校）からは、「点数化により、教員や学校の弱点を明確化し、客観的な分析ができた」「評価が低い項目について必要な情報提供や研修を企画することができる」「集計シートで平均の低い箇所が一目瞭然でわかり、学校全体の実態が把握できる」などの意見があった。

④考察

前記調査から、教育相談自己評価シートが個人の研鑽を深めるだけでなく、現在の組織に必要な研修の企画・運営に役立てられるものであることを実感した内容の回答が多く見られた。

4 研究のまとめ

「教育相談体制チェックリスト」の改訂を通して「教育相談自己評価シート」の作成に至った。どちらも自校及び教員自身の状況の把握や強み、弱点を短時間で明らかにできる。

一方で、導き出された結果や評価を客観的に見つめることによる、課題の捉え直しが必要である。その担い手となる「教育相談コーディネーター」の育成に、当センターは引き続き尽力するとともに、「教育相談体制チェックリスト」と「教育相談自己評価シート」を各学校に広く周知していきたい。

※「教育相談コーディネーター」の配置・指名については、28文科初等1423号（平成29年2月3日付）児童生徒の教育相談の充実について（通知）を参照。